

試 験 地 設 定

区 分 任 意

申 聞 営 林 署

(様 式 1)

開発課題	広葉樹優良林分を造成するための 施業法				期 間	自61年度 至65年度	
開発目的	天然広葉樹皆伐跡地における有用広葉樹 (クス、タブ)の用材林育成方法の確立をはかる						
設 定	場 所	営 林 署	担 当 区	国 有 林	林 小 班		
		串 間 本 城	鈴 連 石	54ら			
	数 量	面 積	数 量	本			
		1.42 ^{HA}	クス 91 24	タブ 158 21	クス 277 113	タブ 501 10	計 417本
設 定 年 月 日	昭和61.4.1		終 了 年 月 日	昭和66.3.31日			
担 当	営 林 局	造 林 課 係					
	営 林 署	経 営 課 造 林 係					
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壌 型	土 性	
	160 ^m	SE	15~20	火山灰	BC	匍行土	
	深 度	堅 密 度					地 位
	中 (30~60) ^{cm}	軟					スギ
					10	9	

林 令	林 種	樹 種	混交率	胸高直径	樹 高	材 積	本 数	相対照度	下層植生
36	天然林	クス、タブ その他	広葉樹 100%	平均 14cm	平均 12m	484 ^{m³}	11,345	90 ~100%	ヒサカキ アケボノ クス、タブ その他
設定前の施業経緯 59年6月に立木販売で地元事業場の素材生産用として 処分されたヶ所で処分面積4.91 ^{HA} の一部(試験地1.42 ^{HA}) 広葉樹の混交率が100%で、その主林木がクス、タブ カシイが占めているので、天然広葉樹皆伐跡地の有用 広葉樹(クス、タブ等)の用材林育成林を設定(今後 の新しい造林事業として)確立をはかっていく。									
全 体 計 画 1. 昭和61年度 (1) 試験地設定 (2) 調査事項 ① 生長量調査 ② 植生調査 ③ 保育(葉かき) 2. 昭和62~昭和65年度 (1) 試験地内指示木の設置 (2) 調査事項 ① 生長量調査 ② 植生調査 ③ 保育(葉かき) (3) 調査結果の取りまとめ									

記載要領 1. 区分は指示、自主、任意課題別とする。
 2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

試験地設定

区分 任意

申 間 営林署

(様式2)

実 施 計 画

1. 試験地設定

昭和61.8.11日～8.12日に試験地区域の
実測及び生長量調査植生調査実行。

(1) 場所、鈴連石国有林 54ら林小班。

(2) 面積、1.42 HA.

1 伐区	0.37	HA
2 "	0.60	HA
3 "	0.45	HA

(3) 保育(葉かき)

61年8月に基幹作業職員により実行。

(4) 試験地標示板の設置。

2. 作業方法

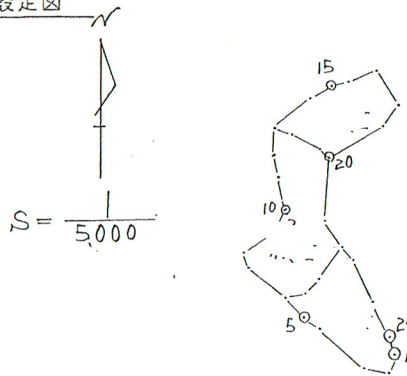
(1) 生長量調査 (61～65年度)

(2) 植生調査 (61～65年度)

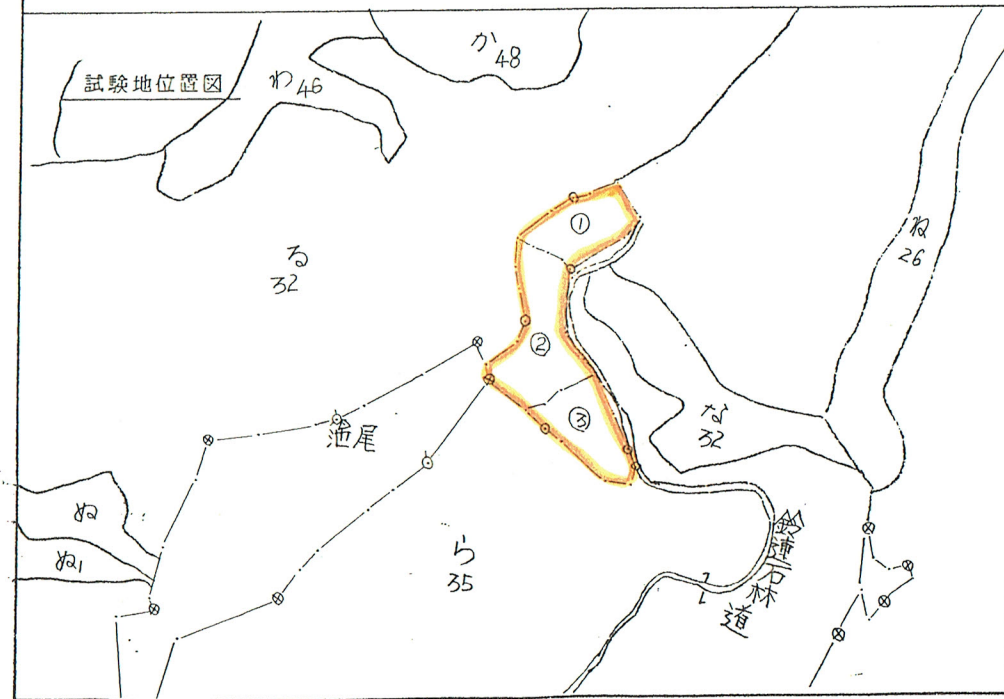
(3) 保育(葉かき)(61～65年度)

なお、保育(葉かき)の施業過程において、63～65年度内
で、有用樹種と他の植生との繁茂状態において
他の保育(下刈、つる切)を取り入れるかは、現地を見ながら
検討する。

試験設定図



試験地位置図



試験経過記録

区分任意

申間 営林署

(様式4)

昭和61.8.11日～8.12日:試験区域の突測及び有用樹種(クス、タブ、カシ、シイ、サクラ、その他)の各伐区ごとの本数調査、生長量調査、植生調査を実施し、取りよめを行ない、試験地の設定を行った。
当試験地は、高温多雨の海岸線に面し、温暖地域で傾斜も比較的緩やかで、標高160m
昭和59年6月:立木販売処分ヶ所、林令36年生の混交率100%の天然広葉樹林でクス、タブ、カシ等の有用広葉樹の占有率が高く、広葉樹優良林分を造成するには最適地で面積1.42haを
1伐区～3伐区に区分し、61年度において基幹作業職員により延人員80人の茅かきを実施し、ぼうがによる茅打ち本数の調整を行った。
当年度亦までにおいて、おむね生長も良好で、62年度以降においても、継続して試験地標示板の設置を行ない、生長量調査、植生調査及び保育において茅かきによる本数調整を行いながら他の植生等の繁茂状況を見ながら、他の保育(下刈、つる切り)の施策を取り入れることとする。

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

課 目	新規	継 続	経常、特別別	経常	担 当	開 発 面 所	申 間	期	昭和 61 年度	予 算 科 目	技 術 開 発 目	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
	継続		目標との関連	1~ア				間	昭和 65 年度			物 件 費	調査用品	0	円	千円
題	広葉樹優良材を造成するための 施業法					造林課	申 間	期	昭和 65 年度	予 算 科 目	技 術 開 発 目	役 務 費	現像、その他	0		
目	天然広葉樹斧伐跡地における有用広葉樹(クスタブ)の 用材林育成方法の確立をはかる。											人 件 費	(基 礎) 臨時 時	(80)		(千円)
的												計	—	80	円	(千円)

全 体 計 画	実 施 経 過	当 年 度 分		
		実 施 計 画	実 施 結 果	評価および普及計画
1. 試験地設定 2. 調査事項 (1) 生長量調査 (2) 植生調査 (3) 施業工程調査	1. 試験地設定(6年度) (1) 場 所 鈴連石国府林54区林班 (2) 面積 1.42 HA 1 伐区 0.37 HA 2 " 0.60 HA 3 " 0.45 HA 2. 調査事項 (1) 生長量調査 (2) 植生調査 (3) 保育(芽かき)	1. 試験地標示板設置 2. 調査事項 (1) 生長量調査 (2) 植生調査 3. 保育(芽かき)	1. 標示板の設置(62枚) 2. 調査事項 (1) 生長量調査 (2) 植生調査 3. 保育(芽かき)	おいむね良好 の生長を示している

広葉樹優良林分を造成するための施業法

1. はじめに

天然更新の多い有用広葉樹(クス・タブ等)の用材林を造成する施業体系を確立する試験を試みた。

2. 試験地設定

(1) 設定

昭和61年度

(2) 場所

完高深草向部 鋸連石園有林 54区・林11班

(3) 面積

1.42 ha

(4) 地況

標高 160m 方位 SE 傾斜 15~20° 土壌型 B1C

(5) 林況

昭和60年度天然更新地(昭和59年度天然生広葉樹収穫跡地)
前生樹、クス・タブその他広36年生 平均径級14cm 平均樹高12m

(6) 設定方法

no.1 (4本仕立区)

面積 0.37 ha

クス・タブ等の有用広葉樹 1株当り仕立本数を4本として
芽かきを1回

no.2 (3本仕立区)

面積 0.60 ha

有用広葉樹 1株当り仕立本数を3本として芽かき1回

no.3 (2本仕立区)

面積 0.45 ha

有用広葉樹 1株当り仕立本数を2本として芽かき1回

図-1 試験設定図

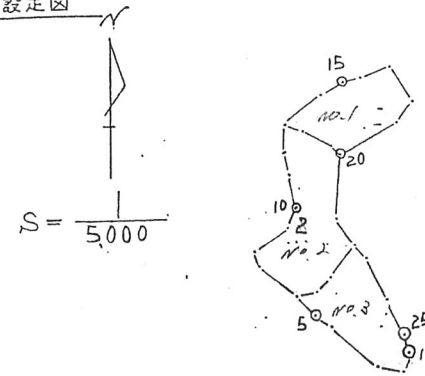
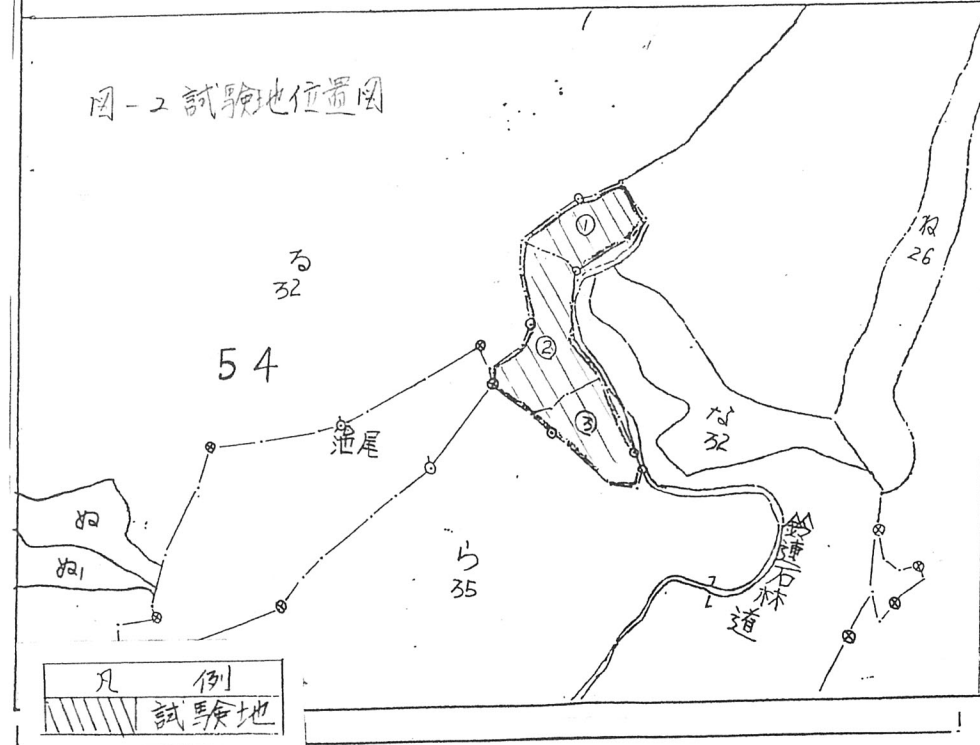


図-2 試験地位置図



状 況 写 真

注意

中 間 資料書

(様式 6)

試験地の遠景(全体)
(蔵原谷(地形的)標準地(254))



3次区

2次区

1次区

面積(m²)

1次区	0.37	(2本(並立時))
2	0.60	(3本 ")
3	0.45	(4本 ")
計	1.42	